


6-16 調整レイヤーと楕円形選択ツールを利用して四隅のケラレを補正する

広角レンズで撮影した場合、周辺光量が落ちて四隅が暗くなる場合がある。特にデジタル一眼レフに銀塩用のレンズを付けた場合、その傾向が顕著だ。また、レンズフードのサイズを間違えるとケラレ^{※1}をおこすこともある。ここでは、調整レイヤーと楕円形選択ツールを利用して、四隅を補正する方法を紹介しよう。

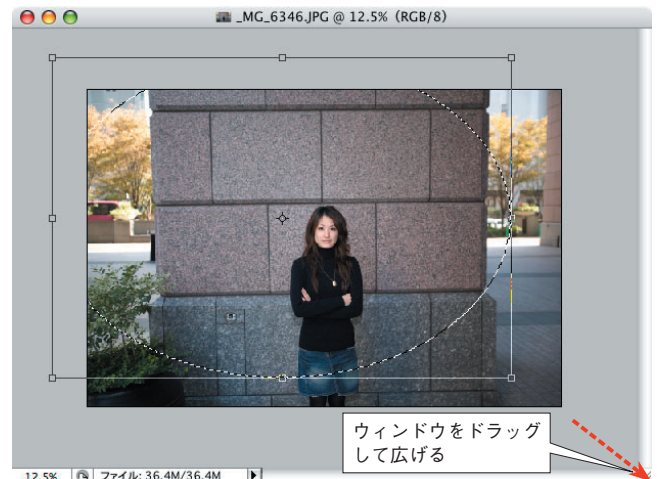
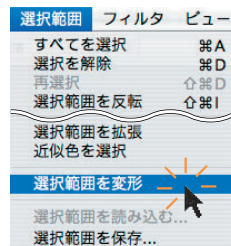
※1 周辺の光量が不足して暗くなり、本来なら写っているはずの画像が部分的に見えにくくなる状態。

四隅のケラレを補正する

- ① （[楕円形選択] ツール）で画面内を適当に選択する。

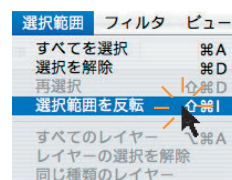


- ② メニューバーの[選択範囲]→[選択範囲を変形]をクリックし、表示されたハンドルをドラッグしてケラレた四隅以外を選択する。楕円形の選択範囲が画像をはみ出すことになるため、ウィンドウを画像サイズより大きく広げて操作するとやりやすい。



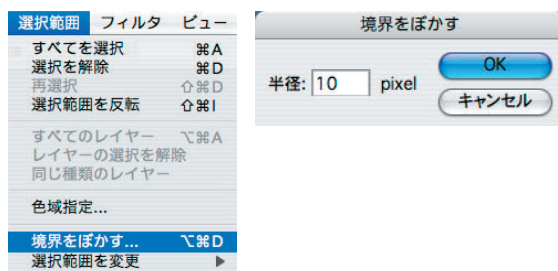
- ③ メニューバーの[選択範囲]→[選択範囲を反転]をクリックすると、画像の四隅にあるケラレ部分が選択される。

注. このときケラレ部分と選択範囲が一致しなければ、クイックマスクモードに切り替えて微調整する。

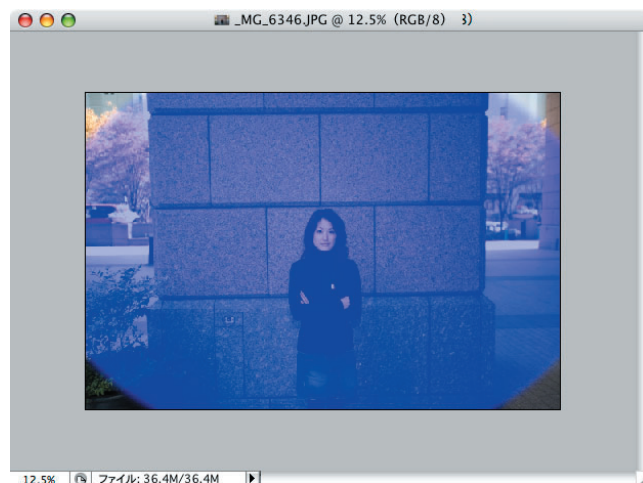


次ページへ続く →

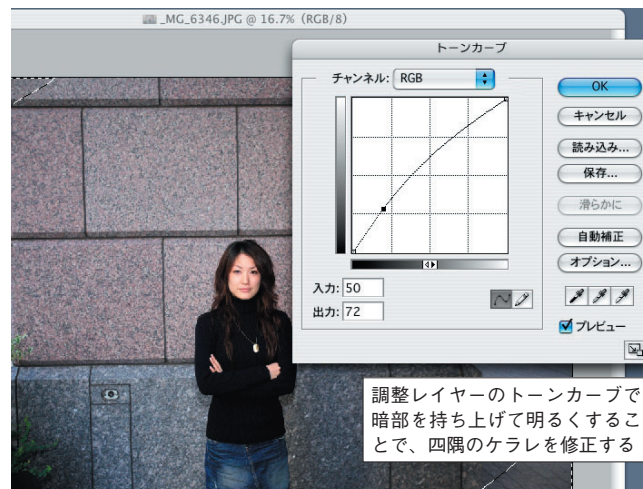
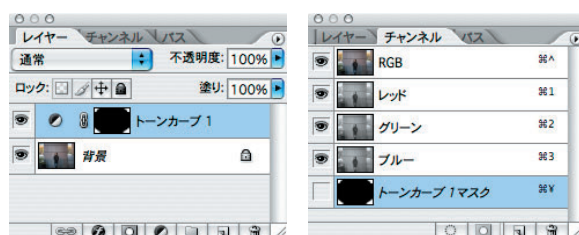
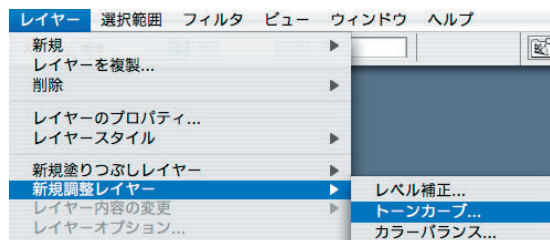
④メニューバーの「選択範囲」→「境界をぼかす」をクリックし、選択範囲（ケラレた四隅）をぼかす。



⑤ぼかすピクセル数は画像によって異なるため、クイックマスクモードで境界のぼけ具合を確かめながら試行錯誤するのがいいだろう。ここでは、「クイックマスクオプション」の設定画面で「マスク範囲に色を付ける」を選択し、マスク範囲を紫色で表示している。



⑥画像描画モードに戻し、メニューバーの「レイヤー」→「新規調整レイヤー」から「レベル補正」または「トーンカーブ」をクリックし、この調整レイヤーで暗部から中間調の濃度を変更する。



次ページへ続く ➡

⑦ 光量の落ちた部分が画像の中心部分と同じ濃度になれば完成だ。うまくいかなければ調整レイヤーの不透明度を変更したり、処理をさかのぼってクイックマスクモードや選択範囲のぼかしからやり直せばいい。



補正前



補正後